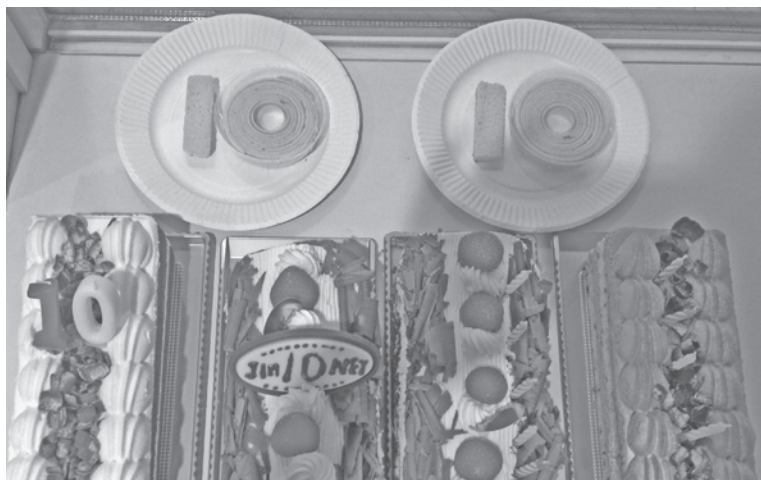




JIM-NET10周年をケーキで祝福(絆ぐるぐるとゼロの〇にちなんでバームクーヘンも登場!)

NEWS

第3回JIM-NET総会報告.....P.1

第13回JIM-NET会議報告・これからの展望
.....P.2~P.3

現地報告① 骨髄移植手術が成功したイマ
ンちゃんと感染症対策.....P.4上

現地報告② アルビル赴任から2か月が経ちました!
.....P.4下

現地報告③ シリア難民妊産婦支援.....P.5

福島これから.....P.6

チョコ募金2015始動!.....P.7

鎌田代表のつぶやき.....P.8上

第16回アラブチャリティーパーザーに出店しました!
.....P.8下

第3回 JIM-NET総会報告

6月4日、カタログハウス本社にて第3回通常総会が行われました。2013年度の活動報告・決算、2014年度の活動計画・予算案が無事に可決されました。JIM-NETは、2004年6月9日に設立され、今年10周年を迎えました。総会前に10年を振り返る交流会も行いましたのでその様子を報告します。

2004年当時は、小児がんの子どもたちを支援するというとてもないプロジェクトに素人ではどうしようもない限界を感じていました。何よりも、人質事件が起きた後で、イラクの中には入れないという厳しい前提でのスタートでした。雑誌で鎌田實先生のことを知り、ともかくJCFの総会に乗り込んで話を聞いてもらいました。劣化ウラン弾のこと、戦争に加担した悔しさもあり、あつという間にできたネットワーク。

「ここまで続くとはあまり思わなかった。途中苦しい時もあったけど、チョコ募金が始まって目処が立った。JIM-NETらしさは、費用対効果のような数字で表せない部分。たとえば、院内学級が初めてイラクにできて、奥さんを白血病で亡くしたイブラヒムを先生として雇って、今度は、患者だったザイナブが僕たちの支援で元気になって助手として雇われる。一緒に治療を受けていたお姉ちゃんが先生になって登場することは、子どもたちにとって夢を与えることになっている。

JIM-NETらしい夢を与えてきた。」(鎌田代表理事) 鎌田ひとみ理事は、「イラクの医師が、『ステーキはいらぬ、パンと塩があればいい』と言ったのが印象に残っています。支援した子どもたちが生き延びなく

ても、ほったらかしにされていないことが大事ではないかしら」

一人の人間ドラマが、また新しいドラマを作っていきます。イブラヒムがいなければ、チョコ募金を作るきっかけになったサブリーンとの出会いもなかったでしょう。サブリーンの絵を皆が愛し、彼女が死ぬ瞬間もイブラヒムは電話やメールでレポートを送り、日本中みんなで一少女を看取りました。

名古屋でイラク自衛隊派遣差し止め訴訟を闘った池住義憲理事は、「国際協力は費用対効果しかみない。白血病、難病の支援は経済効率悪い。そこをJIM-NETがやってきたことは大きな意味がある。」

経済効率ではなく一人ひとりの命を大事にしてきたやり方は、大飯原発の再稼働差し止め判決にも通じ、「人間の生存の権利と、電気代の高い低いの問題を同列に並べて議論することの愚かしさ」をいましめるべきです。

今年1年間は、10周年に向かって温める時期。かわっている人たちの心を温めて再スタートを切ります。今までつながっていた人に熱い応援をしてほしいです。

JIM-NET事務局長 佐藤真紀

【イベントのお知らせ】7月は以下のイベントを企画しています。皆さまのご来場お待ちしております(詳しくはHPをご覧ください)。

①「JIM-NETの10年 イラク戦争とわたしたち」

日時: 2014年7月5日(土) 17:30~19:30(予定)

場所: 明治学院大学

出演者: 安田純平、谷山博史、佐藤真紀

② シリア妊産婦支援報告会

日時: 2014年7月26日(土) 18:00~20:00

場所: 渋谷区立千駄ヶ谷区民会館 会議室 1

報告者: 榎本彰子(JIM-NET現地支援担当者)ほか

第13回JIM-NET会議報告・これからの展望

井下俊（JIM-NET医師）

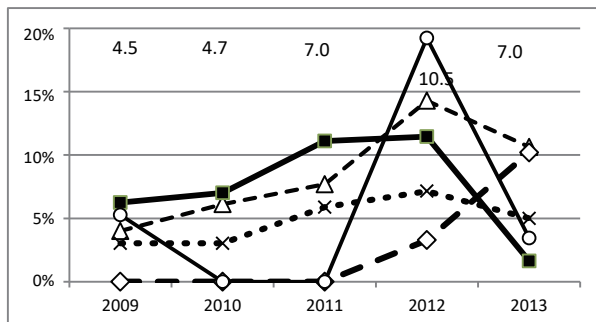
2006年から2009年にかけて、イラクの小児急性リンパ性白血病（ALL）の治療成績が向上したことは以前のJIM-NET会議で明らかにされていた。これは2006年以降イラク戦後の混乱が徐々に収束していき、平時に近い医療が成されたことによる当然の結果であった。よって2009年以降の小児ALLの治療成績を解析することで、イラクが本格的に発展に向かっているかどうか推し量ることができ、かつJIM-NETの活動評価ができる。

今回のJIM-NET会議では、2009年以降の治療成績の経年的変化に焦点を当て、アルビル（ナナカリ）・バグダッドの二つの病院（CWTHとCCTH）・バスラ（BCSH）およびモスルの5つのセンターから、2009年から2013年までの5年間のALL症例のデータを集めて比較解析した。なお、症例数はセンターによりばらつきはあるが、各年とも計250名前後である。

【小児ALLの治療結果に進歩はみられず】

まずは、治療早期死亡率である。イラクでは治療早期の死亡率が高い。それを防ぐために抗癌剤や抗生物質、成分輸血装置などの支援を行ってきた。残念ながら、各センターでばらつきがあるものの2009年以降この5年間で明らかな改善傾向はみられていない（図1）。5つのセンターの平均でみると、2009年は4.5%であったのが2013年には7.0%まで上昇している。因みに医療先進国では2%未満であり、イラクの治療はまだ未熟で安定していないといえる。

図1）治療開始から30日目までの死亡率



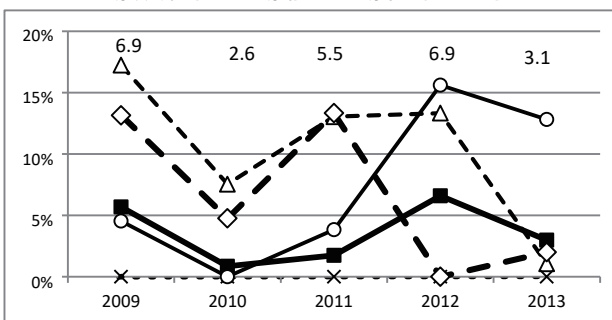
- △ CCTH：子供中央教育病院（バグダッド）
- CWTH：子供福祉教育病院（バグダッド）
- ◇ BCSH：バスラ子供専門病院
- × イブン・アシール病院（モスル）
- Nanakaly：ナナカリ病院（アルビル）

* 図中の数字は、各年の5つのセンターの平均値

* 上記表示は図2および図3にて同じ

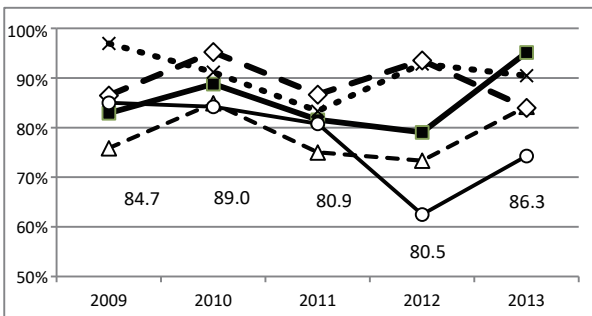
次に治療放棄率である。イラクでは経済的問題や治安、あるいはALLについての知識不足のために治療を放棄する患者が多い。治安・経済状況の安定とともに、治療放棄は劇的に減少し0%近くになるのではと想像していたのだが、甘かった。2009年から2013年の5年間では、治療前および治療開始30日までの治療放棄率は、2010年が2.6%と最も低くなっていたが、概ね5%前後を推移している（図2）。診断されたALLの子供の20人に1人が診断から1か月以内に治癒への道を自ら諦めているのである。治療を拒否する患者に医者は何もできない。医療の専門家団体ではないJIM-NETこそが力を入れるべき支援だと感じる。

図2）治療放棄率（治療前～治療開始30日後まで）



診断された症例のうち、治療早期の死亡を回避し治療を放棄することなく、初期治療がうまくいった症例は完全治癒も見込める。その目安が完全寛解達成率である（図3）。医療先進国では98%以上であるが、イラクではこの5年間85%前後で推移しており、まだまだ満足できる結果ではない。そんな中、最も症例数が多く成績が安定しているCWTH（バグダッド子ども福祉教育病院）の2013年の寛解達成率は95.2%の高値を示し希望がもてる。

図3）寛解導入率



以上、3つの短期的治療評価項目では改善は認められていない。では長期的評価ではどうだろうか。悪性疾患の長期的治療結果は、一般的に5年生存率（5生

率)で評価される。日本の小児ALLの5生率は80%を超えており、高い生存率ゆえに治癒可能な疾患とみなすことができる。イラクの5生率は2006年のデータで40%程度であった。2009年以降はどうだろうか？まだ観察期間が十分でないが、途中経過としてイラクで最も症例数が多いCWTHのデータを表1に示す。

表1) CWTHでのALL患者の生存率

観察期間	1年(%)	2年(%)	3年(%)	4年(%)
2009(n=112)	1306日	78.4	69.0	61.5
2010(n=114)	1176日	83.3	71.8	67.2
2011(n=108)	810日	76.7	71.0	—
2012(n=96)	481日	76.0	—	—

2009年の生存率は4年経過時点ですでに55%以下になっており、2010年2011年のデータでも5生率は60%を下回ると思われる。2006年よりは5生率は10~20%程度改善しているが、ここ数年で確実な進歩はない。

【治療成績向上の障壁】

イラク戦争直後、喫緊の課題であった薬剤不足は現在では緩和している。バグダッドで2004年から2005年にかけて需要の20-30%程度しかなかった政府からの薬剤供給は、現在では80%程度まで回復している。しかしイラクの小児ALLの治療成績は満足できるものではない。なぜだろうか？

その一番の理由として、CWTHのマーゼン先生は医療スタッフ不足を訴えていた。年間の新規小児がん患者が300名を超えるCWTHで、2009年以降小児がん専門医は5名であった。患者一人に十分な診療時間をとれず、「疲れ切っている」と昨年の会議で嘆いていた。それゆえCWTHの治療成績(図1、3■)は2009年以降悪化の一途をたどり、2012年の治療早期死亡率・寛解達成率ともに最悪の結果となった。幸い2013年には専門医が7名に増員され、患者数が減少したことも相まって余裕をもって診療できるようになり、2013年の成績は著明に改善した。しかし、他のセンターではまだまだ小児がん専門医は足りていない。

小児がん患者の治療は、医師だけでなされるものではない。がん治療で重要な感染予防の活動には、看護師はもちろん、清掃作業員や患者家族の協力も欠かせない。マーゼン先生は、これら協力スタッフの能力も治療成績のあがらない理由の一つとしてあげていた。

イラクでは、文化的・宗教的背景から看護師の社会的地位は低く、治療戦略の中での看護師の役割は軽視されている。傷の消毒や体の清拭・おむつ交換・ベッド周囲の清掃などは看護業務には含まれていない。患者の清拭や清潔環境維持は、患者家族や清掃作業員に任されているわけだが、彼らの清潔概念は十分とはいえない。イラクの医師たちは感染予防の重要性を十分認識しており、細やかに看護師のみならず患者家族や

清掃作業員を指導している。しかし「彼らをコントロールできない」と嘆いていた。

【10年の活動の反省】

ここ数年JIM-NETの小児がん支援の活動は、このレポートがそうであるように学術的なものがメインとなり、患者やその家族の顔が見えにくくなっていた。これはイラク支援の窓口であるイラク医師とのつながりを維持するための方策であったのだが、日本で一般からの支援を募るには不向きである。

また、JIM-NET設立当初から重点をおいていた感染予防対策は、功を奏したとはいえない。イラクと日本では、根本的な看護システムや清潔概念に大きな隔たりがある。日本では当たり前の活動をイラクに導入することは、彼ら自身の文化の変換を迫ることにもなり、無理強いすることはできない。感染対策を確立するためにはイラクの看護師や清掃作業員を育成するより、他の湾岸諸国のように外国からそのような労働者を招いたほうが近道である。実際に、昨年あたりからバグダッドおよび南部バスラにインド系の看護師が数百名単位で確保され働いており、政策として外国人看護師の導入が進められているようだ。

【今後に向けて】

2009年以降、治療成績は進歩していない。その原因はイラクの保健行政や文化的背景があり、なかなか太刀打ちできそうにない。10年間の活動での反省もふまえたうえで今後の活動の大筋として、学術的支援にこだわらず、患者とその家族を対象とし、感染予防を推進でき、かつ経済的支援などにより治療放棄の防止に貢献できるような活動を考えている。

現在、シリア難民や国政選挙の影響を受け、イラクの治安は再び悪化している。貧富の格差も拡大する一方に見受けられ、イラクの小児がん患者たちを再びイラク戦争前と同じ状況におかないために、JIM-NETはイラク小児がん支援を続けなければならない。



JIM-NET会議に参加した医師ほか各関係者
(2014年2月21日アルビルのホテルの会議室にて)

～現地報告①～ 骨髄移植手術が成功したイマーンちゃんと感染症対策

榎本彰子（海外プロジェクト担当）

前回のチョコ募金で、パッケージの絵を描いてくれたイマーンちゃん。骨髄移植のために半年間滞在していたインドから、5月に手術を終え帰国しました。白血病を再発し骨髄移植をしないと命が危なかったのですが、無事移植手術が成功しました！出発前より痩せていましたが、明るい笑顔でインドのことを話してくれました。毎日カレーで飽きたと言っていました。その日はインドの民族衣装を着ており気に入っているようでした。



インドから帰ってきたイマーンちゃん

しかしイマーンちゃんのように骨髄移植の手術後も、感染症にかかるリスクは高く、予防していかななくてはけません。JIM-NETは、感染症対策の向上にも力を入れています。

2月に国井看護師がアルビル訪問した際、ナナカリ病院の看護師対象に感染症対策セミナーを実施しました。みな、医療従事者なので基本的なことはすでに知っていますが、セミナーを実施することで、感染対策への意識

をさらに高めたり、対策について医師や同僚と再確認することができたようです。

また5月には、田村看護師が子どもたちとより密接な家族向けに、感染症対策セミナーを開催しました。当日は17家族を対象に、まずは、なぜ感染症対策が重要なのかを説明しました。田村看護師自ら作成したイラストを活用し、参加者へ質問したり対話しながら患者家族の感染症に対する意識を高めました。また感染症の対策方法とし

て、実際に患者や家族自身が実施できる、日常生活の中での注意点を指導しました。今回のセミナーは、ペイマン医師やイラク人看護師のシャイダーさんで行いましたが、今後は現地の看護師が主体となって継続的にセミナーを実施できればと思います。

医師や看護師などの医療従事者だけでなく、患者家族も含めたチームとして、子どもたちを感染症から守っていききたいと思っています。



イマーンちゃんと
榎本海外担当スタッフ



～現地報告②～ アルビル赴任から2か月が経ちました！

田村佳子看護師（シリア難民妊産婦支援プロジェクトコーディネーター）

アルビル生活2ヶ月が過ぎました。到着した時、夜はまだ肌寒かったアルビルはすっかり夏！日中の気温は連日40度近くまで上昇します。そんな暑さも楽しみながら、妊産婦プロジェクトは妊産婦セミナーとパンフレット及び物資配布が一段落し、現在は産科病院での検診のモニタリングやキャンプ内での妊産婦さんの家庭訪問を行っています。

アルビルに1つしかない公立産科病院での出産前検診では、急増するシリア難民の受け入れにイラク側も負担が増え、妊婦さんが満足な検診を受けられないこともあります。モニタリングを行い、妊婦さんが安心して出産できるようサポートしています。

難民キャンプ内の家庭訪問では、妊産婦さん対象の心のケアワークショップの開催や、セミナー参加者、医療バス利用者を対象に、今回のプロジェクト評価を行いながら、産婦さんや赤ちゃんの健康相談も行っています。産後の産婦さんにマッサージをしたり、赤ちゃんの体調を伺ったりしながら産婦さんが1人で悩んでいることはないかなど相談に乗っています。元気に生まれてくる赤ちゃんがほとんどですが、中には未熟児で生まれてきた赤ちゃん、分娩麻痺で腕が上らない赤ちゃんなど早期にケアが必要な子もいます。そのような場合は、情報提供や医療費のサポートなど行っています。私たちができることは限られていますが、お母さんたちは訪問して話

をきくだけでほっとするようで、この家庭訪問を通して傍で寄り添うことの大切さを学びました。

最後に、難民キャンプで妊産婦さんと関わって一番気になったことは、セミナーに来ている妊婦さんで1歳前後の赤ちゃんを抱えてくる人が非常に多いことです。とにかくみなさん子たくさん。16人目を妊娠しているお母さんもいました！シリアでは親戚や近所の人が支えてもらえますが、キャンプ内ではほとんどの人が家族で生活していかなければなりません。また、難民キャンプという特殊な環境下で、夫も職がなく日中の時間を持て余している人も多いことから、家庭内暴力であったり望まない妊娠をする人も増えている様です。今後の課題として、難民キャンプでの家族計画への指導も必要になってくると感じました。

残り1ヶ月、シリア難民の方々に少しでも寄り添いながらサポートを続けていきたいと思っています。

写真下：
難民キャンプで物資配布



写真上：
妊産婦セミナーで
説明する田村看護師



～現地報告③～ シリア難民妊産婦支援

佐藤麻衣子エリザベス (シリア難民妊産婦支援元プロジェクトコーディネーター)

みなさま、こんにちは。

佐藤麻衣子エリザベスです。私はパレスチナ人の父と中東を撮る写真家だった母の間に生まれ、イスラエルで育ちました。東日本大震災発生直後から、NGO職員として被災地での支援活動の傍ら、東北の被災地に残った衣服をシリア難民に届けるプロジェクトを独自で行ってきました。今年に入ってから2月半ばから4月まで、JIM-NETのシリア難民妊産婦支援活動に、プロジェクトコーディネーターとして参加。アルビルの難民キャンプで妊産婦さんたちに向けて開催したワークショップの様子など、日々ご支援くださる皆様に、現地の声をご報告致します！

【もの作りワークショップ①靴下人形編】

JIM-NETローカルスタッフのRawaさんが中心となり、アルビルにあるダラシャ克蘭難民キャンプで約20名の妊産婦さんに靴下を使って人形を作るワークショップを2回行いました。You tubeを見せながら行ったので何度も巻き戻して見ながらみんな夢中になってやっていました。「むずかしい!」とか「ビデオ巻き戻してー」とか「なんでこんなとこに目つけてんのー!」など色々会話がはずみます。出来上がった人形の顔はそれぞれ違って、笑いが絶えない終始楽しいワークショップでした。



みなさん同じものを使って同じものを作っているのにそれぞれ違った個性的な顔になるのがおもしろいですね。

【もの作りワークショップ②羊ぐるぐる編】

羊の毛を使ってストラップを作るワークショップを20名対象に2回行いました。集まった参加者は嬉しそうに羊の毛を囲んで熱心に作り方を教わっていました。羊毛をほどく作業はやった事があるという人がほとんどで慣れた手つきですぐにほどこ、作業も早くて時間内に2個以上作ることができました。慣れてくると作りながら会話に花が咲きました。笑って話す人がほとんどですが、一人、ずっと話していなかったヤルムーク出身のパレスチナ人女性が、ぽつと「最近母親が亡くなったが危なくてお葬式にも行けない」と辛そうな表情で言いました。すると他の人たちが彼女をいたわる言葉を言ったり、ヤルムークがひどい状況なので大変だったねと声をかけたりしていました。するとだんだんと話をするようになり、家族構成やどのように避難してきたかななどを話し、ヤルムークは大変だが自分はここに来れた事だけでも神様に感謝だと言っていました。この彼女も最後には2つストラップを作って嬉しそうに帰っていきました。

【妊産婦への心のケアワークショップ】

リラクゼーションワークショップと称して「ストレスを感じている」と言った妊産婦さん20人を集めて行いました。一ヶ月に4回のコースで、事前事後テストにより効果も測ります。最初にプログラムの主旨を話し、セルフケアについて、またストレス発散の方法と一緒にディスカッションしました。そして心と体が繋がっている事から体をまずほぐす事を一緒にということでストレッチをし、人と繋がるという意味でペア一組でストレッチをお互いにしました。次は園芸です。土を触ったり匂いをかいだりと、昔、平和だった頃、園芸をやっていたことを思い出してもらい（ほとんどの人がかつて野菜や花を植えていました）その気持ちをシェアしてもらいました。園芸はシリアを出てからみんな初めてといい、「このにおい懐かしい!」とずっと土を触っていました。蒔く種はシリア料理によく使われるけれどもアルビルでは売っていないモロヘイヤやパクチー、それにミントやパセリの種です。また発芽・開花率も高い朝顔も全員に数個植えてもらいました。これには日常の中で待ち遠しくなるもの、明日が楽しみになるものを日々の生活に取り入れるという意味があります。最後はハンドマッサージをお互いにやるというアクティビティ。「次はマッサージをやります」と言ったとたん「きゃあ!! やったー」という感じの黄色い声。みなさん最初はやり方がわからず、一組ずつ回ってやってあげると「極楽だー」といかにも気持ち良さそうな顔をしていました。冷たい手の方が多かったのですが、終わる頃には手がだいぶ暖かくなったと喜んでいました。「妊産婦さんは体冷やしちゃだめですよー、家でもやってくださいねー」と伝えると「じゃあだんなにやってもらうかな」と返事があって一同爆笑していました。最後の回で、好きな対処法を聞いてみたところ、呼吸法、ストレッチ、マッサージ、そして園芸という声もありました。

不自由なものだらけだが、本当に欲しいのはシリアの平和だけなのと言って泣いてしまう参加者もいましたが、この人は中心的人人でいつもみんなを笑わせている人でした。周りの人たちがすぐに何かいたわる言葉を言っているようで間もなく泣き止みました。悲しくなったり人と話したくなった時話す相手はいるかと聞いたら、「この会で知り合った人」「今までいなかったけど、ここで話せる」などと言ってくれた人がいてこのワークショップをやった本当によかったと思いました。

一回だけではできませんが数回継続することで人とのつながりが出来始めるので、このままいい関係が続くよう、JIM-NETでお手伝いできればと思います。

福島のこれから

佐藤真紀（JIM-NET事務局長）

JIM-NETは、2011年の6月に初めて福島に入り、7月から本格的な支援活動を開始しました。今年度は常駐をおかず、チョコ募金の一部をいままでも福島事業にまわしてきましたが、今後は基金として、福島の団体に使ってもらおうという方向を打ち出しています。震災当時は多くの寄付も集まり、できたてのNPOも活発に活動をしていましたが、3年目になると、支援を終了するドナーも多くなっているという話も聞きます。

それは、福島を見捨てるということではなく、ある意味仕方ないのかなと個人的には思います。震災当初は、多くの国際協力NGOが被災地に入りました。海外からの支援は、こういった国際協力NGOが受け皿になりました。しかし、本来業務としての国際協力をおろそかにするわけにはいかないですし、何よりも、福島のNPOが、3年間で経験を積み力をつけたことで、役割は終わったともいえるでしょう。

私たちは、昨年「絆ぐるぐる」をやりました。古着も、震災当初はありがたいですが、今年流行の服を買えるようになれば、古着はいりません。でも国際協力の現場では古着が求められています。福島大学ボランティアセンターやピースボートで古着を運んでもらいヨルダンのシリア人難民キャンプに持っていくと、難民がわさわさ集まってきて、取り合いが始まり、おばさんたちが怒鳴り合いを始める騒ぎになりました。着の身着のままで逃げてきた人たちに何が必要で、故郷を追われた哀しみがわかるのも、被災という体験があるからこそですね。ヨルダンは今、原発の導入を検討している国です。福島だからできることを国際協力の現場でも役に立ててほしいなと思いますが、まだまだ放射能の問題は解決していないのも事実で、JIM-NETは、効率のいい支援を継続したいと思っています。

【健康診断の支援】

昨年度は、チョコ募金福島バージョンとして伊達市の富成小学校の子どもが描いた絵をポストカードとしてサービスし、3a郡山にお願いし1,332件のチョコ募金の窓口になっていただきました。チョコ募金は、パッケージがイラクの子どものかいた絵を使っておりとてもかわいいので、袋詰め作業そのものが楽しいのです。是非作業も体験してほしいと思いました。今の福島では、8割が放射能のことを心配しているけど、9割は無関心という状況。精神的にはしんどい場面がたくさんあります。袋詰め作業は単純ですが、気晴らしにもってこいです。結果として

500円×1,332=66万6千円の募金を集めてくださいました。このうちから経費を差し引いた金額43万5600円が、3a郡山が行っている被ばく自主検査費用補助などに使われます。

【ホットスポットファインダー】

チョコ募金のお金100万円を使ってホットスポットファインダーを購入しました。これは高感度のシンチレーションサーベーターとGPSが連動し地図上に空間線量を書き込んでいくというシステムです。歩くだけでデータが自動的に取り込まれるのでホットスポットを検出するのにすぐれています。

早速、ためにしに福島の街中を歩いてみました。モニタリングスポットでは低い値を示していても街路樹の土のところは、1-4 μ Sv毎時ありました。行政と連絡を取り合い、こういったホットスポットを除染したり、近づかないようにマーキングすることがとても大切です。情報を公開して、騒ぎを大きくするのではなく、そこで暮らす人たちが細かくはかって現実を見てどう行動するかということが大切です。準備が出来たら、装置の貸し出しも始めたいと思っています。

（写真下）
ホットスポットファインダーで測定中



（写真上）
ホットスポットファインダーの
使い方をレクチャーする事務局長



（写真上） グーグルアースでデータ表示したところ

チョコ募金2015始動！

毎年、皆様に多大なご協力をいただいているチョコ募金。次はどんな絵の缶かな？と楽しみにしてくださっている方もたくさんいらっしゃるかと思います。今年も秋から開始予定の次のチョコ募金に向けて、さっそく準備が始まっています。新任チョコ募金担当者もベテラン(?) 担当者もやる気まんまん。すでに盛り上がっているスタッフの面々をご紹介します。

芦澤礼子と申します。4月末からチョコ募金担当として東京事務所に入りました。前歴は中国での日本語教師、編集者、ライター・校正、衆議院議員秘書などバラエティーに富み(!?)、一方で市民運動にも関わり続けてきました。

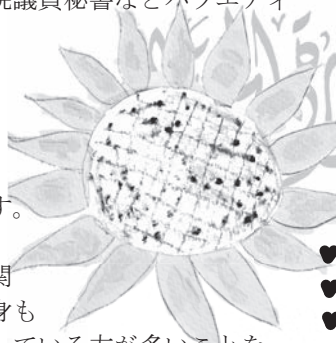
2002年の末、米軍のイラク攻撃が目前という危機感の中でWORLD PEACE NOWというイラク反戦ネットワークが立ち上がり、私も参加しました。翌年3月にイラク攻撃が始まる直前の日比谷公園集会&デモには4万人もの市民がつめかけ、デモが終わるまで長い時間がかかったことをよく覚えています。

あれから11年、JIM-NETのスタッフとしてイラクの子どもたち、シリア難民の妊産婦さん、福島の子どもの支援に関われることになり、嬉しく思います。チョコ募金には自分自身も今まで何度か協力しましたが、改めて毎年チョコを楽しみにしている方が多いことを実感しています。先日チョコを作ってくださいる帯広の六花亭本社に挨拶に伺いましたが、会社の心意気を感じて胸が熱くなりました。イラク・シリア・福島と支援者の皆様との絆を大切にし、前任者斉藤の熱意も引き継いで、心をこめて働きたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。



芦澤礼子
(チョコ募金統括)

- ♥ 4月9日生まれ
- ♥ おひつじ座B型
- ♥ 花に例えると?
一元気いっぱい
黄色いひまわり



竹内弥生
(チョコ募金受付担当)

- ♥ 4月16日生まれ
- ♥ おひつじ座O型
- ♥ 花に例えると?
一おしとやかな
ピンクのガーベラ

4月からは会員様への連絡業務やイベントの広報などを担当しています。チョコ募金の受付では、募金者様の声を直にお伺いし、皆様の意識の深さに驚き、私自身も募金に対する価値観が変わりました。イベントではJIM-NET設立当初から関わっているというボランティア様にお会いすることも多く、これまでの10年間、JIM-NETが多くの募金者様、ボランティア様に支えられてきたことを認識しました。これから支援者の方々と現場との橋渡しができるよう情報発信していきたいと思います。

どうぞ宜しくお願い致します。



崔麻里
(チョコ募金広報担当)

- ♥ 10月7日生まれ
- ♥ てんびん座B型
- ♥ 花に例えると?
一情熱の赤いバラ



初めまして。2004年に『イラクの子どものための絵画展』を企画開催したご縁でJIM-NETとのおつきあいが続いております。絵画展準備の折、そっと画用紙を開く度に遠いイラクの子どもの声が聞こえて来たことは今でも忘れません。多くのメッセージを伝える子どもたちの絵は、私自身の「いま」を振り返らせてくれるころの先生です。

この度、広報・企画のお手伝いをさせて頂くこととなりました。発足して10周年目を迎えるJIM-NET。チョコ募金を始め、JIM-NET独自の取り組みを継続できておりますのは、ご支援下さる皆さまのご協力があつてこそ。一方、昨年末からチョコ募金とJIM-NETを紹介する機会を頂いておりますが、まだまだJIM-NETの存在や活動をご存知ない方々が沢山いらっしゃることも再確認。その度に嬉しくなったのは、興味を持って下さる方との新しいご縁です。

いつも大忙しの事務所ですが、「こんな方法も試してみたい」「こんな企画はどう?」といった小さなつぶやきが消えてしまわないよう、つぶやきキャッチャーとしてお役に立ちたいと考えております。子どもの幸せを願う心は万国共通です。優しい心の繋がりが◎◎と広がり、笑顔がもっともっと増えて行きますように！

鎌田代表のつぶやき。。。

イラクの子どもたちを支援するJIM-NETは、5年前から北イラクのアルビルに拠点をしています。そのアルビルの郊外にシリア難民の方々が脱出してきました。昨年12月、僕自身も新しくできた巨大難民キャンプを見てきました。シリアの内戦状態は、一向に解決の兆候が見られません。しばらく膠着状態のままだと思います。アラブ系の人々は子だくさんの家が多いです。小さな子どもをたくさんつれて、お腹の大きいお母さんが、危険なシリアを脱出し、隣国の北イラクに入ってきます。難民キャンプがどんどん大きくなってきます。その難民キャンプにテントを張って、テントで出産をはじめました。危険極まりない行為です。僕が入ったキャンプには診療所ができました。そことイラクの病院との連携の中で、異常分娩になる可能性のあるお母さんたちを病院へ搬送する方法を考えました。エコーの検査機器を買って、安全に子どもを産めるように環境を整えてきました。外務省のNGO連携無償資金援助も今回はいただきました。そのお金を有効に使い、妊婦さんを助けることと、生まれてくる新生児を助ける活動が、徐々にですが軌道に乗り始めています。みなさんの応援があってこそやれることです。

イラクの白血病の子どもたちの治療成績をもう少しあげたいと思います。かつてモスルの病院で小児白血病の子どもを診ていたリカー先生は、現在、北イラクの病院で診療しながら、日本で学んだ遺伝子

の研究を続けています。有名な科学雑誌の論文掲載にも成功し始めています。劣化ウラン弾と白血病の因果関係がいずれ解明できることを願って、リカー先生を支援しています。

福島県伊達市のある地域で、自分たちの子どもの安全を守っていくことを自分たちの手でやれるように住民と話し合いをしています。そして住民自身が空間線量測定をしたいということになれば、自分たちの地域のマップ上に測定結果を落とせるようなシステムを購入して貸し出す援助をし、住民自身で使っていただきます。空間放射線量の情報公開をし、自分たちの生活の仕方を考えていく、そういう一助になることができればと思って計画を進めています。

世界の本当の平和や、福島の人たちが安心して生活ができるようになるまで、JIM-NETは他の団体がやらないようなことを丁寧にやりながら、子どもたちの命を守っていきたくと思っています。

これからも厚く厚くお力添えをお願い致します。

皆さまの常日ごろの

ご支援に感謝をしています。 難民キャンプのムスタファくん



第16回アラブチャリティーバザーに出店しました！

山田聖子（JIM-NETボランティアスタッフ）

5月18日、東京プリンスホテルで「第16回アラブチャリティーバザー」が開催されました。今年も開場時間前から人が途切れることない盛況なものでした。華々しいダンスショーの音楽と喝采で大声を出さないと会話が出来ないような中、ボランティアで参加した私は、人波に「こんにちは」と呼び掛け、ブースに並べた品々を紹介しながら、活動の説明に努めました。そんな中、イラクの子どもたちやシリア難民の母子の写真に見入る民族衣装の女性がいらっしやいました。私はブースの中から「ありがとうございます」の意味を込めてお辞儀をしました。しばらくするとその方は、持っていた巾着袋の中からお金を取り出してブースに近づいて来られたので、私は自分の前の募金箱を指し



寄付をくださったスーダンのご婦人

示して会釈をしました。持っていたお金を募金してくださった後、袋のお金を見せて私に傾き掛け、私の両手の上に、何と袋の中のお金を全て預けてくれたのでした…。何かお礼を、写真を、と慌ててJIM-NETスタッフに集まってもらい、何とかお礼の気持ちを伝えることが出来ました。その女性はスーダンの方だということでした。この様な体験をすることが出来たのは、JIM-NETだからこそと感じ、これからもまたいろいろな機会に参加していきたいと思っています。

引き継ぎ支援下さい。
迎えるJIM-NET、今年6月で10周年を

【編集後記】

JIM-NET便り 2014年 6月号

発行：特定非営利活動法人

日本イラク医療支援ネットワーク

発行日：2014年6月27日

〒171-0033

東京都豊島区高田3-10-24 第二大島ビル303

info-jim@jim-net.net ☎03-6228-0746